



こんにぴあ。熱帯夜が続いていますね。みなさんいかがお過ごしでしょうか。
KPは暑い暑いといいながら活動つづけてます・・・さあ、もう今年も後半戦です。

【6/9 と 6/16 神奈川県立保健福祉大学にゲストスピーカーとして行ってきました!】



神奈川県立保健福祉大学（リハビリテーション学科作業療法専攻）の授業（奥原孝幸先生）にてゲストスピーカーとして講演し、グループワークや学生の面接演習にも参加しました。

これまでの自分のストーリー、今の暮らし、これからの目標などをお話しました。個別面接演習では、学生さん達がたくさんの質問をして、それぞれの思いをきいてくださいました。これから病院実習や現場に出ていく学生たちに、エールを送りました。
（風書さん、やまださん、おーちゃん、村山さん、三瓶）



【6/27 桜美林大学へ出張授業!】

桜美林大学（健康福祉学群 精神保健福祉の原理Ⅰ）の授業（河合美子先生）にて、ゲストスピーカーとして講演し、「精神科医療における権利擁護～精神医療人権センターの活動から～」というテーマでKPの活動を紹介してきました。

大切にしている「聴く」ということや、学生さん自身も含め、誰もが自分ごととしてメンタルヘルスのことや周りの方のこころを大事にしてほしいこと、福祉の仕事を目指す学生へのエールを伝えてきました。学生さんからは事前事後にも、たくさんの質問や感想を寄せていただきました。

（風書さん、やまださん、三瓶）



【7/11 福島県ピア交流会にて発表してきました】

福島県精神保健福祉士会主催 第1回地域活動支援センター&ピア交流会にて発表してきました。

YPS横浜ピアスタッフ協会やKPの成り立ち、取り組みについて発表しました。ピアや市民活動の可能性や、地域づくりについて、福島のたくさんのピア（仲間）と出会い、語り合いました。各地で、権利擁護の取り組みや、安心できる居場所（機会）づくり、地域づくりが進んでいくといいなあと感じました。（三瓶）



【6/19 身体拘束ゼロ・機械的拘束ゼロを目指し 要件の拡大を止める院内集会に参加してきました】

6月19日、参議院議員会館で行われた『身体拘束ゼロ・機械的拘束ゼロを目指し要件の拡大を止める院内集会』（精神科医療の身体拘束を考える会主催）に参加して来ました。KPも後援しました。

日本の精神科医療の現場で行われている機械的拘束（拘束具を用いた身体拘束）の現状や大臣告示によって拘束の要件が拡大されることへの危機感、諸外国での法的な拘束の位置づけや取り組みなどについて、長谷川利夫さんや医療福祉従事者、弁護士や当事者、家族の方々のお話を聞きました。最後に集会アピール文を会場の皆さんと全会一致で採択して閉幕しました。参議院議員の方々も参加され、情報を共有しました。

「誰かがそばにいる」ことで、身体拘束はしなくてもケアが出来る、というイギリスをはじめとした諸外国の情報が印象的でした。マンパワーの問題も深刻です。私自身、入院しているときも他の患者さんが人員不足を理由に夜間のみ隔離・拘束されているのを目の当たりにして疑問を感じていました。

現在の法律の下での医療裁量の課題や、今後の精神科医療、精神保健福祉の在り方について、当事者としていかに一般社会に普及啓発活動の中、理解を求めていくべきか、障害者運動を通して進めていかなければならないと決意を新たにしました。
(藤井哲也)



【7/26 日本福祉大学同窓会記念講演会 堀合さん登壇しました】

青木聖久さんが長年の実践の中で関わってこられた当事者の方たちのエピソードを聞き、人間らしさへの視線にあらためて感銘を受けました。真摯に、ユーモアを持って、自己開示をも交えてお話しされる青木さんの姿勢を受け、程よい緊張感を持って、私の自己紹介を兼ねたリカバリーストーリー（KPの活動もご紹介しました）とその後のトークセッションに臨むことができたと思います。当事者の視点をどうお伝えするか、という点は、特に意識しました。質疑応答では、精神疾患を持って働くことに対する参加者の方たちの関心の高さを感じ、普及啓発活動の大切さを実感しました。
(堀合悠一郎)



＜参加した感想＞

障害者の方の生きづらさを考えたり、家族との関係や、青木先生の講演会のエピソードで、結婚している当事者の方を多数紹介されていたので、障害者の結婚について考えさせられました。法律婚や事実婚などいろいろな選択肢はありますが、1人で生きていくより、2人で苦楽を分け合うというのもよいのではないかと思います。

精神障害者は、身体障害などに比べて、社会的排除の傾向が強いのので、社会的包摂で誰もが生きやすくなるような共生社会になれるように心から切に祈ります。

(池畑美穂)

＜参加した感想＞

青木先生のお話の中で特に心に残ったことは、「長年にわたる疾患や障がいとの付き合いから、それが当たり前のこととして、常態化していることが少なくない。」そのような日常生活に制限を受けながらも尊厳ある人間らしさを求めて生きていくことが大切であるということでした。何を持って「人間らしさ」というのかは難しいことだとは思いますが、人としての尊厳を持ち、その人らしく生きることが叶う社会作りが求められているのではないかと思います。

堀合さんのお話で心に残ったことは、誰にでも起こりうるプレッシャー、恐怖の中で、それと向き合い、乗り越えていく地道な努力、そんな前向きな生き方に感銘を受けました。特に質疑応答の際、じっくり考えて答えを見つける姿はとても印象的で素晴らしかったです。

これからも障がいのあるなしに関わらず、全ての人が人間らしく生きられる社会作りにご尽力、ご貢献されることを切に願っています。
(渡部栄一)

『定例会ってこんな様子です』

〈6月 定例会〉

■電話相談活動について（電話相談の様子や、活動へのおもい）を語っていただきました

（参加者の発言より）

- ・きっかけは相談者としてだった、その後ボランティアをしている
- ・友人をなくして、何かできなかったかという思いから相談活動をしている
- ・自分の入院経験から、入院している人の力になりたいと思って活動している
- ・ボランティア同士の雑談ができることがいい
- ・相談を受けていて、反省することもある
- ・（相談者の立場から）聴いてもらえるだけでありがたいと思う
- ・あなたも頑張っってねと相談者から声をかけられてうれしかった
- ・相談者から怒られることもあった
- ・問題解決ではないということ

〈7月 定例会〉

■「わたしのKP活動」

「KPに参加しているおもい」を語っていただきました

（参加者の発言より）

- ・なにか役に立ちたい
- ・ライフワークとして続けたい
- ・よりよい社会のためにとおもって活動している
- ・入院したとき拘束されてつらかった、そういう病院を変えていきたい
- ・いろいろな機会に参加して、学んでいきたい
- ・電話相談でいろんな人と話すことが面白い
- ・ボランティア同士の雑談も勉強になる
- ・精神疾患のことを学びたい
- ・自分の入院時の体験を語っていきたい
- ・飲み会に参加することも楽しい

KPの定例会は、皆さんと一緒に作っていただけたらと思っています。
こんなことを話したい、こんなこと聞いてみたい！！とか要望をおよせください。



【サポーターになってください!!】

わたしたち KPの活動（病院の訪問や相談活動、普及啓発事業など）は、サポーターの皆さまからのご支援で成り立っています。

活動を継続していくために、サポーターとしてお力を貸していただければ幸いです。

（2025年6月～2025年7月にご寄付いただいた方）佐藤さん、高浪さん、大下さん、おーちゃん、川合さん、酒井さん、Hさん、池畑さん、匿名さん（順不同）

ありがとうございました。これからもどうぞよろしく願いいたします。



こちらから銀行振込
または
クレジットカードが
えられます。

【ボランティアのつぶやき】

みなさんこんにちは！

今年の夏は猛暑が続いていますが、この暑さのなか、どのようにお過ごしですか？

7月31日とても暑い日にハートフル川崎病院へ面会に矢ヶ崎さんに行ってきました。病院は武蔵小杉からバスで15分位の住宅街の中にあります。病院名には「心がこもりやさしさにあふれた病院」を目指す目標が込められているとのこと。

今回は退院希望の患者さんからKPに電話相談が入り面談しました。KPにはこのような相談が多いかと思いますが、医療保護入院の場合は本人の強い意思だけでは退院出来ないのが現実です。家族の負担を減らす為にも、地域が受け皿になり家族が安心してご本人が自分らしい生活を出来るようにKPで何が出来るのか？と考えます。

入院患者には退院希望の方が沢山いらっしゃいます。治療が終わり医師のOKも出ているのに退院出来ない事は辛いことですね！

今日面談した方の退院したい強い思いが現実になれるようお手伝いしていきたいと思いました。面談をして沢山の事が学ぶことができました。このような機会を頂き感謝です。ありがとうございます。（島中）

電話相談などで活動してくださっているボランティアさんに日々感じたことをつぶやいていただきます。

【相談活動のご報告】6月～7月

<相談活動の集計と内訳>

	総数	電話	メール	手紙	訪問面会	所内面接	オンライン 面談
6月	107件	90件	9件	2件	1件	5件	0件
7月	112件	99件	7件	0件	3件	2件	1件

<新規相談の内訳>

	件数	本人	家族・ 関係者	県内	県外	不明	医療	生活・福祉・ そのほか
6月	16件	9件	7件	9件	6件	1件	13件	3件
7月	15件	13件	2件	11件	3件	1件	10件	5件

KP日誌

《ミニミーティング》

ボランティア相談員を中心に相談の経過報告や対応の検討をしたり、情報共有をしたりして、相談員相互のサポートの話し合いを行っています。

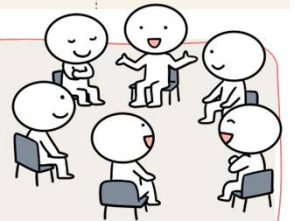
6月27日（金）9名（現地6名、オンライン3名）
7月25日（金）4名（現地4名）

《定例会》

現地とオンラインのハイブリットで開催しています。
ぜひ、みなさんご参加ください。

6月20日（金）来場19名 オンライン6名
7月18日（金）来場17名 オンライン12名
8月5日（火）来場22名 オンライン7名

※次回定例会は9月19日（金）18：00～です！



事務局のうごき

【かながわ人権団体・自治体交流会議（7/4）】

第28回自治体人権担当者交流会議（神奈川人権センター主催）

KPも今年度より神奈川人権センターの正会員団体および人権ケースワーカーの認定をいただき、自治体との交流会議に参加しました。神奈川県の人権施策について、さまざまなテーマで情報共有を行いました。KPも団体紹介を行いました。県内の自治体や人権団体と、連携していきたいと思います。



【県センター田仲さん ベルギーからおかえりなさい！（7/14）】

神奈川県精神保健福祉センターの田仲さんが来所

田仲さんが視察してきたベルギーの地域精神保健の様子について、ご報告をいただきました。ゲールやブリュッセル近郊の『ネットワーク』について、精神医療の取り組み、里親による地域移行・共生の取り組み、NPOの運営する認知症ケアセンター、など教えていただきました。

（氏家さん、増子さん、堀合、藤井、三瓶）

【編集後記】

ベルギー視察からもうすぐ1年。やどかり研究所交流集会、リカバリーフォーラム、JCOMHSなど多方面で講演も行い、『共同創造の精神保健福祉をすすめる会』にも参画しています。たくさんの方が、“これからの日本の精神保健福祉が、どうあったらいいか”についての、関心の高さを感じています。KPでは、ひきつづき、みなさんと一緒に学び、考え、話し合う場を持っていきたいと思っています。このニュースでも報告していきます！！

発行：認定NPO法人さざなみ会

KP神奈川精神医療人権センター

けいびーかながわせいしんいりょうじんけんせんたー

発行日：2025年8月18日

住所：〒235-0023 神奈川県横浜市磯子区森6-1-10

事務局電話：080-7372-7432

相談電話：080-7295-8236

MAIL : kp.kanagawapeer@gmail.com

ホームページ：https://kanagawa-peer.com/

